

## スポーツ関係団体ヒアリング結果の概要

ご意見要旨	主なご意見
<p>スポーツへの関心を高めたり、参加を促すには「情報発信」に力を入れる必要がある</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツに興味、関心を持ってもらったりするのに「情報発信」は重要。</li> <li>・「見る」から「する」につなげるには「広報活動」が重要。以前は、「広報さっぽろ」がその役割を果たしていたが、今は掲載情報が限られている。</li> <li>・スポーツに参加したいと思った時に、一元的に情報が得られる場（ホームページや窓口）があると良い。各競技団体の主な年間行事を紹介する広報誌を年1回でも発行すると良い。</li> <li>・マイナーな競技の認知度を上げるために「情報発信」が重要。どのようにすれば効果的か第三者のアドバイザーなどがいると良い。</li> </ul>
<p>スポーツのすそ野を広げたり、人材を発掘・育成して行くには、子どもの頃からスポーツに親しめる環境づくりが必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・底辺を広げる上で、子どもの頃からスポーツに親しむことが重要。学校教育の果たす役割は大きいですが、体育授業が減っていることや指導者が不足しているのが課題。また、親が共稼ぎで子どもをスポーツクラブに送り迎えできないなどといった社会的な課題もある。</li> <li>・子どもの頃からスポーツに親しむ事が大切で、「見る、ふれる」機会をつくる事が重要。だが、「する」は身近なところでやれる場が無い、団体に属しないとやれないなどのハードルがある。人間関係がうまくつくれずに部活動をやめる子もいる。</li> <li>・スポーツ関係団体が協力しあって、ウインタースポーツフェスタのような啓発イベントを開催する事も有効かもしれない。</li> <li>・各団体が連携し、一定の体力のある子どもを対象に、いろいろな種目を体験してもらえるイベントを開催し、人材発掘（スポーツタレント発掘事業）を。音頭は市が取ってくれれば良い。</li> <li>・U12、U15、U18など世代別のチームを持つ事で、プロを目指す子どもたちの受け皿になれる。</li> <li>・スポーツに親しむイベントを開催し、親子で参加してもらいたいと思っているが、親の参加が得られない。</li> </ul>

<p>高齢者のニーズに合わせたスポーツに親しむきっかけづくりをしていく必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ施設の高齢者利用が増えている。高齢者はスキルアップより、仲間づくりを目的とする方が多い事を意識した事業計画づくりが必要。</li> <li>・シニア大学との連携などにより、高齢者が仲間とスポーツを始めるきっかけづくりが必要。</li> <li>・シニア（40歳以上）を対象としたイベントを開催したことでシニアの競技団体登録者が増加した。</li> </ul>
<p>これからは、生涯スポーツ、地域スポーツに力を入れて行く必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これからは、生涯スポーツ、地域スポーツに力をいれて行くべき。地域スポーツクラブのような、学年や年齢で途切れずにスポーツ指導を行える機関が必要。</li> <li>・少年競技者の減少が課題。学校のクラブ活動を卒業した後の受け入れ体制が無い。</li> </ul>
<p>障がい者もスポーツに親しめるための環境整備や体制づくりが必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい者を受け入れる取組をしているが、安全を確保するための会場整備や、受け入れノウハウ、体制の整備が必要。</li> <li>・障がい者の方へのスポーツ指導をしているが、介護しながら指導できる技術が求められる。指導者の学習支援の補助を。</li> </ul>
<p>競技団体と行政が協働して、誰もが気軽にスポーツに親しめる入り口づくりを工夫して行く必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・底辺を広げる上で、遊び8割、安全2割で誰もが気軽にスポーツに親しめる入り口づくりが大切と考え、いろいろ工夫をしている。区主催で、家族ぐるみで参加できるイベントを開催してはどうか。</li> <li>・夏、冬毎に各団体が協力しあって市民が様々なスポーツに親しめるイベントやスポーツ教室を実施してはどうか。障がい者のスポーツ大会も団体が協力しあって実現している例もある。</li> <li>・用具を揃えるのが大変との指摘も有るので、貸し出しサービスなども考えて行きたい。</li> </ul>
<p>トップアスリートを育てるために専用の競技施設の整備が必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トップアスリートを育てることが、底辺を広げる事になる。時代にあった全国大会や国際大会ができるよう施設の更新やアクセス環境の向上が必要。特に、観覧席の設置や控室の充実を進めて欲しい。</li> <li>・武道館や自転車競技場、ソフトボール場、フットサルなどの専用施設が無い。</li> </ul>

<p>札幌の魅力を生かし、国内国外へ向けてスポーツツーリズムの開拓に力を入れて行く必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツツーリズムの観点から、札幌の魅力を生かせるウインタースポーツや夏期にも運動しやすい環境のアピールに力を入れ、子どもの頃から体験できる環境づくりや、観光客の誘致にもつなげる。</li> <li>・冬は沖縄、夏は札幌と地域間の交流もできると良い。</li> <li>・施設紹介のホームページを、英、台、中、韓の4カ国語で発信し、観光客や海外からの施設利用の誘致に努めている。</li> <li>・他のスポーツ施設との「共通チケット」や、「まちなめぐりパス」に参加するなどしている。</li> </ul>
<p>指導者の高齢化が進んでいることから、新たな指導者の育成に力を入れていく必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者が高齢化している。地域のスポーツ指導ができる人材の発掘活用が必要。</li> <li>・各競技団体が連携し、教員を対象とした指導など、指導者育成に取り組んでは。</li> <li>・子どもの父兄も含め、ウォームアップとクールダウン、傷害予防、救急措置などを教える指導者講習会を開催し、指導者の育成に努めているが資金的支援を。</li> </ul>
<p>スポーツを「支える」寄付文化の醸成や、ボランティアの育成、コーディネートに力を入れていく必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロスポーツでは、数百人規模のボランティアに協力してもらっているところもある。</li> <li>・スポーツを「支える」環境づくりのために、市民や企業の寄付文化の醸成やボランティアへの参加を促す取り組みが必要。</li> <li>・ボランティアの募集や、団体の垣根を越えて横断的に活躍してもらえる場やネットワークづくりが重要。競技の普及啓発や緊急時の対応を考えて、ボランティアの質の向上など、統一的な教育が必要。</li> <li>・現在は、大学の学生ボランティアに協力してもらっている。希望すればボランティアになれる仕組みと、登録し現場とつなげる機構が必要。</li> <li>・リハビリやマッサージなどができる専門学校の学生ボランティアの育成や、市民病院と連携して救護ボランティアの体制づくりなどを、行政と協力あってやっていけないか。</li> </ul>
<p>スポーツを通じ地域との連携に力を入れて行きたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロスポーツも、地域の祭りなどに出向き、地域と連携したり、市民に還元する場を設けて行きたい。</li> </ul>

<p>行政の役割として、企業やマスコミなどとの橋渡しや、広報に力を入れて欲しい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政には、活動を「支える」意味で、自ら大会やイベントの後援団体になって欲しいし、後援団体やスポンサーの紹介、マスコミの紹介など、「橋渡しの役割」をして欲しい。</li> <li>・大会や体験教室の開催に努めているが、参加者が少ないのが悩み。学校への告知や PR、会場の提供について行政の支援が欲しい。</li> </ul>
<p>競技団体のノウハウを活かし、学校や地域におけるスポーツの普及を支援したいが受け皿が無いのが課題。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動と社会体育の枠組みがもっと連携し、大会への参加や指導者の派遣など、社会体育の活性化に寄与したら良い。</li> <li>・学校教育や地域の場実践者や指導者、審判員の派遣をする用意や、イベントや大会の企画ノウハウはあるが、受け皿が無い。</li> </ul>
<p>既存の施設をもっと活用しやすいように、管理運用面の見直しを行う必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・札幌市所有以外の施設も含め、利用時間や利用機会が限られるなど運用面で課題がある。学校など既存の施設の管理運用のあり方を見直せば、新たな施設をつくらなくてもまわして行けるのでは。</li> <li>・茨戸のボート、藤野のリージュなど、それぞれの地域で特徴あるスポーツを推進する事が望ましい。</li> </ul>
<p>他の競技団体との情報交流や、連携の機会がもっとあると良い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他競技団体の、選手発掘、普及の取組みについて情報交換する場が欲しい。今回のヒアリングのように各団体が話し合う場、交流の場も大切。市のコーディネートに期待したい。</li> <li>・冬季のスポーツと、夏競技の冬季間トレーニングの連携などできると良い。</li> </ul>
<p>安心してスポーツに親しめる環境づくりが必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康スポーツ、競技スポーツを研究、指導、医学、リハビリなどの面から支える、国立スポーツ科学センター（JISS）の地域版のような機関が必要。</li> <li>・スポーツ安全教育の推進を計画の方針や基本施策に盛り込むべき。</li> </ul>
<p>有能な人材が札幌に残れる雇用環境を形成していく必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・役所や地元企業がスポーツを職業としていける雇用の受け皿をつくり、人材が外部に流出しないようにすべき。</li> </ul>
<p>札幌市は北海道のスポーツの牽引役になって欲しい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本の考え方に、北海道のスポーツの牽引役としての札幌の役割を明記して欲しい。</li> </ul>

